

格好よい？

1. ホウジャク

「日本にハチドリがいた」といって連絡してきた人がいました。実際に海外でハチドリ見たことのある人が間違えるくらい、形や飛び方、行動がそっくりなガです。和名が「蜂雀」と付けられたのは、行動をよく観察していたということです。花の前で、空中



ホシヒメホウジャク

に停止(ホバリング)しながら長い口吻を伸ばして花蜜を吸います。口が蜜まで届かなければ頭を突っ込むようにします。忙しく花を次々に訪問しますから、花にとっても花粉を運搬してもらうために最適な昆虫です。昼行性のガですから出会う機会も多いのですが、打吹山よりも花が多い庭や垣根によく来ているかもしれません。

太い腹部をもち、翅は三角翼となっていて高速で飛びます。空気抵抗を減じ、高速飛行を目指すと、音速を越える戦闘機と同じ形になるのです。

ホシホウジャク、ホシヒメホウジャクともにヘクソカズラを幼虫が食草としています。スズメガの仲間の特徴的な尾角をもっていますから、ヘクソカズラの葉に食痕がある場所をさがすと見つけることができます。



ホバリングしているホシホウジャク



ヘクソカズラを食べる
ホシホウジャクの幼虫

2. ヘクソカズラの実

クリスマスリースにも用いられるくらいどこにでも生えています。つる性ですから、日当りのよい遊歩道脇の藪で見られます。花の時期も目立つのですが、この山吹色のつやつやした実は特に目がいきます。

取って潰すと名前のおり悪臭です。この匂いの感受性には個人差があるようで、臭くないという人もいます。乾燥させると悪臭はなくなり、薬用にされているそうです。抗菌作用があり、



萼片が残っている実

ヒビやシモヤケに効果があります。これから寒さに向かう今、取って乾燥させておいて使ってみてはいかがでしょうか。

実は帽子をかぶったように額片(がくへん)が残っていて、よく見るとしゃれています。完熟すると臭わなくなるのか、鳥も食べるようになり、人も甘みを感じます。中には2個の種子が入っており、花の時期にめしべの先が2本見えていることと一致します。



ヘクソカズラの実